

ドキュメンタリー映画

『ぼけますから、よろしくお願ひします。』

～だれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちへ～

■日 時:9月8日(水)開場 14:00～ 上映 14:30～16:30

■場 所:かめありリオホール

東京都葛飾区亀有三丁目26番1号(JR 亀有駅南口下車徒歩1分)

■定 員:200人(座席数:610人) 参加費:1000円

■ご挨拶:沼田たか子(葛飾・生活者ネットワーク:映画上映会実行委員)

●お問い合わせ・お申し込みは、葛飾・生活者ネットワークへ。

TEL070 - 1688 - 0166 E-mail katsushika@seikatsusha.net

かろうを向け、初めて気づいた。
両親がお互いを思い合っていること。

母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

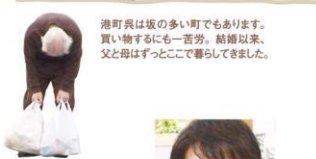
そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ライターを通して、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたって特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物をにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに沿い、感染拡大予防対策を行った上で開催します。今後の感染拡大などの状況によって、やむを得ず上映を中止させていただく場合があります。予めご理解ご了承の程、よろしくお願ひいたします。



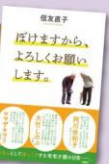
ドキュメンタリー映画

ぼけますから、
よろしくお願ひします。

監督書き下ろしによる待望の書籍化!

あのシーン・この場面を撮影した時の心情、映像には入れなかった出来事、そして現在の信友直子様まで、読めばまた映画が見たくなる感動作です。

『ぼけますから、よろしくお願ひします。』信友直子 著
(株)新潮社 / 1,500円(税込) / 2019年10月21日刊行 / ※全国書店でも発売中





令和元年度
文化庁映画賞
文化記録映画大賞



ぴあ映画
初日満足度1位
(11月3日ぴあ調べ)



第92回
キネマ旬報ベスト・テン
文化映画3位



第43回
日本カトリック
映画賞



2018年度
全国映連賞
特別賞



認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

ぼけますから、



よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録



監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子

プロデューサー：大島新 濱潤 共同プロデューサー：前田亜紀 堀治樹 山口浩史
編集：目見田健 実景撮影：南幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田聡 整音：富永憲一
配給宣伝協力：ポレポレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給： NetzGen フジテレビ 関西テレビ

2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com

▲提供：(c) 2018 「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会